



目次

◆支部からのお知らせ.....1	協議会報告.....2
■舩倉島復興支援のための寄付金を募ります！ 【投稿：日本野鳥の会石川】.....1	■第 30 回日本野鳥の会中部ブロック会議議事録.....2
◆ブロックからのお知らせ.....1	◆事務局からのお知らせなど.....4
■2026 年度日本野鳥の会九州・沖縄ブロック大会 （大分大会）報告.....1	■『Strix』第 42 号発行のお知らせ.....4
■2026 年度日本野鳥の会九州・沖縄ブロック運営	■『Strix』第 43 号の原稿募集のお知らせ.....4
	■会員数.....5

◆支部からのお知らせ

■舩倉島復興支援のための寄付金を募ります！
【投稿：日本野鳥の会石川】

2024 年 1 月の能登半島地震では、舩倉島も地震と津波の被害を大きく受けました。輪島港が隆起し、フェリーは出港できず、長らく運航不可の状態が続きましたが、2025 年夏にはようやく運航が再開されました。島民が再び島へ渡れるようになったものの、震災の爪痕は激しく、未だ完全復旧には至らず、一般客の渡島は叶わない状況です。また、島内は人の手が入らない期間が長かったため、草木が鬱蒼と茂り、草刈りにも多くの労力が必要な現状です。

こうした中、日本野鳥の会石川では島の自治会を少しでも支えようと活動を開始しました。この春（5 月 1 日）からは、島の復旧や自治会活動の支援のための募金の呼びかけを始めたほか、今後はボランティアによる草刈りも予定しています（フェリーの土日の運航再開時期によるが、今のところ、2026 年秋を予定）。

舩倉島復興支援のための寄付金については、以下の URL または二次元コードから「日本野鳥の会石川」の案内ページをご覧ください。

<https://wbsj-ishikawa.jimdofree.com/舩倉島寄付金募集/>



（代表／白川 郁栄）

◆ブロックからのお知らせ

■2026 年度日本野鳥の会九州・沖縄ブロック大会（大分大会）報告

- 日時：2026 年 5 月 16 日（土）～5 月 17 日（日）
- 場所：天空の大地 久住高原ホテル、（探鳥地：黒岳及びタデ原）
- 参加者：大分県支部（担当）（43 名）、北九州支部（9 名）、福岡支部（11 名）、筑豊支部（2 名）、筑後支部（4 名）、佐賀県支部（12 名）、長崎県支部（8 名）、熊本県支部（8 名）、宮崎県支部（14 名）、かごしま県支部（5 名）、財団（2 名。前日に九重連峰の登山に来られていた上田会長も飛び入り参加）、合計 118 名

●内容

【1 日目 14：00～20：30】

1) 開会挨拶

- ◎九州・沖縄ブロック運営協議会 代表 かごしま県支部支部長 本田洋
- ◎大分県支部 支部長 谷上和年

2) 来賓挨拶

- ◎大分市長 土井昌弘様
竹田市およびユネスコエコパークおよびラムサール条約湿地の紹介
- ◎大分県生活環境部自然保護推進室長 阿部明美様
ユネスコエコパークの調査、県のレッドリスト改定への協力の謝辞
- ◎財団 葉山常務理事
今年度は全国連携団体総会を対面で行うこと、熊本でグローバル・ネイチャーポジティブ・サミットが開かれるのとの紹介

3) 講演

- ◎谷上大分県支部長より、支部の取組として行っている祖母・傾・大崩ユネスコエコパークの緩衝・移行地域自然環境調査について紹介が行われた
- ◎後藤大分県副支部長より翌日の探鳥会開催地であるタデ原・黒岳の野鳥について紹介
- ◎葉山財団常務理事より、モニタリングサイト 1000 で見えてきた九州・沖縄の野鳥の状況と調査協力への謝意と協力依頼を行った。また「サシバの渡り全容解明プロジェクト」のこれまでの活動報告と九州での繁殖個体の渡りの状況が不明な点の報告を行い情報提供を依頼

4) 各支部よりの報告

- ◎参加支部より活動の概要と今大会への参加者の紹介

5) その後

- ◎夕食と懇親会、オークションが行われ、最後に「坊がつる賛歌」の合唱で終了

【2日目】

黒岳とタデ原の2グループに分かれ探鳥会実施

- ◎黒岳（男池）探鳥会 37名参加 26種確認
- ◎タデ原探鳥会 60名参加 28種確認



以上

（常務理事／葉山 政治）

■2026年度日本野鳥の会九州・沖縄ブロック運営協議会報告

ブロック大会に先立ち運営協議会が開催された。九州・沖縄ブロックでは定例として毎年2月に運営協議会が各支部の代表、役員が参加して開催されているが、ブロック大会開催時にも1時間程度の協議が行われている。

【概要】

1) 開会挨拶

- ◎ブロック代表の本田かごしま県支部長より、今年度からブロック代表となった挨拶がなされた。

2) 協議事項

- ◎2026年2月の運営協議会の議事録の確認
- ◎2025年度決算報告および2026年度予算案
公共交通機関の運賃改定に伴う協議会参加への旅費補助の変更の確認
- ◎2027年度ブロック大会の開催について宿泊費高騰等について協議
- ◎その他、運営協議会は。次回以降、対面で実施することの確認

以上

（常務理事／葉山 政治）

■第30回日本野鳥の会中部ブロック会議議事録

- 日程：2026年5月30日（土）13:30～5月31日（日）11:30

- 会場：富士研修所

- 参加者：新潟県（4名）、富山（2名）、石川（2名）、福井県（4名）、軽井沢支部（1名）、諏訪支部（2名）、伊那谷支部（1名）、東富士（1名）、沼津支部（1名）、南富士支部（2名）、静岡支部（2名）、遠江（1名）、愛知県支部（1名）、岐阜（2名）、三重（4名）、富士山麓支部（5名）、甲府支部（17名）、財団（3名）

- 幹事：甲府支部

●プログラム

【1日目】

- 13:00 受付
- 13:30 開会・挨拶・日程説明
- 13:45 講演
- 15:00 協議・提案事項
- 16:30 諸連絡、記念撮影
- 18:00 夕食・懇親会
- 20:00 二次会

【2日目】

- 5:00 早朝探鳥会（希望者）
- 7:30 朝食
- 9:00 協議・報告事項
- 11:15 閉会・挨拶
- 11:30 解散

●内容（敬称略）

1) 開会挨拶

- ①甲府支部支部長 杉原廣

富士山麓支部の積極的な協力により本会議が開催されたことへの謝辞と、参加者に向けて「人と人のふれあい」、「草原での出会い」を十分に感じてほしいとの挨拶があった。

- ②財団常務理事 見田元

ハイブリッド（オンライン併用）開催に関する提

案について、この取り組みを他ブロックや各支部にも広げていきたいとの意向が示された。

2) 特別講演

◎演題：「富士山麓の鳥類と草原ヨタカの不思議な生態」

◎講師：山梨県富士山科学研究所研究員 水村春香

講師より、希少種の研究内容や、奥日光・軽井沢と並ぶ「日本の三大野鳥繁殖地」としての富士山麓の特徴が解説された。高山帯、亜高山帯、山地帯のそれぞれの多様な環境と生息する鳥類について紹介された。また草原ヨタカについての調査研究結果を講演していただいた。

3) 協議・報告事項

①ジョウビタキの繁殖分布拡大について（諏訪支部 杉山直）

2024 年の生息状況アンケート結果が報告された。本州初の繁殖記録以降、長野県全域や周辺へ生息が拡大しており、今後の分布変化の記録に向けて「夏のジョウビタキの観察例」の提供協力が呼びかけられた。質疑では、eBird の活用や足環調査について意見が交わされた。

②チュウヒの保全活動について（石川 白川郁栄）

石川県への要望書提出の経緯が報告された。ヨシの消失やカメラマン等の危険要因に対し、財団との連名で県知事および北陸農政局長へ 4 項目の要望書を提出予定だが、現在、農政局側から提出を待っており、欲しいと言われて待機している状況である。

③舩倉島被災支援の活動および募金について（石川 白川郁栄）

被災した舩倉島の現状と支援状況が報告された。フェリー再開後も島民以外の乗船は制限されている中、自治会を支える助成金申請や現地活動の手伝いを行っており、今後は草刈りなども手伝う予定である。また、復興支援寄付金への協力が呼びかけられた。各支部からはメーリス等での周知協力の意見が出された。

④カメラマンによる野鳥への餌付けについて（甲府支部 千野繁）

撮影者の増加に伴うマナー問題と餌付け規制の法的な現状が提起された。法的な強制力がない中での各支部の対応事例が共有され、カメラ業者へのマナーチラシ同梱の働きかけや、管理者とのトラブル、二次被害（獣害）などの現状について意見が交わされた。また、財団からカメラマンによる餌付け事例の資料が提出された。甲府支部により後ほどアンケートを実施予定である。

⑤人の生活圏のオオジシギについて（富士山麓支部 水越文孝）

忍野村の新名庄川沿いの草地におけるオオジシギの夜間のディスプレイ（求愛行動）の観察報告が行われた。2024 年からは姿が見られなくなっており、人知れず夜間に生息している個体の存在について推

測が述べられた。

⑥探鳥会リーダー養成研修会について／ゴミ拾い探鳥会を実施しませんか？（財団普及室 箱田敦只）

ゴミ拾い探鳥会の開催提案と、来年度の中ブロックでのリーダー研修会開催に向けた相談が行われた。研修の目的や講師育成の目標が示され、各支部でのサブリーダー方式や一本釣りによる人材確保の現状、費用負担のあり方について意見が交わされた。

⑦モニ 1000 調査結果と調査員募集について（財団自然保護室 奴賀俊光）

モニタリングサイト 1000 陸生鳥類調査の説明とこれまでの一般サイトの成果について説明された。また、今後、新たに調査員を募集する中ブロックのサイトを紹介し、調査員のリクルートへのご協力や、調査研修・交流会への参加を呼びかけた。

⑧中部地方各県におけるトラフズクの生息状況（新潟県 岡田成弘、熊谷美峰）

トラフズク生息アンケートの中間報告が紙ベースで実施された。次回三重大会での最終報告に向けて、各支部へ再度アンケートへの協力をお願いされた。また、新潟県での会報発行やツバメのふん受け皿研修会などの活動が紹介された。

⑨コアジサシ全国一斉調査について（愛知県支部 新實豊）

これまでのブロック内での調査や環境省調査の歩みとともに、全国調査の概要が説明された。コアジサシは内陸部にも飛来するため、海なし県の支部も含めて注意深く見守り、調査への協力をお願いしたいとの要望があった。

⑩ブロック会議のオンライン併用について（愛知県支部 新實豊）

2027 年三重大会でのオンライン併用（ハイブリッド化）に向けた進捗と意見交換が行われた。参加費の徴収有無や運営方法について各支部から意見が出され、次回のホストである三重が財団と協議して進め、実施してみる方針となった。

⑪支部の現状について（沼津支部 鈴木正之）

役員減少や高齢化に伴う体制縮小の現状と課題が報告された。これを受けて各支部の財政・スタッフ確保について議論が行われ、探鳥会の有料化の現状（会員・一般の参加費設定など）や、役員が負担を感じず楽しめる運営体制づくりの重要性について意見が交わされた。

4) 閉会・次回開催

◎閉会挨拶（甲府支部副支部長 野沢久）

前日の特別講演および当日の早朝探鳥会への労いとともに、会議の成果を来年の糧にしてほしいとの要望があった。また、富士吉田周辺の観光を楽しんでほしい旨が伝えられた。

◎次回開催について（三重代表 近藤義孝）

ハシボソミズナギドリの大量漂着の現状共有と

もに、次回（第 31 回）大会は 2027 年 5 月 15 日～16 日に三重県四日市市菰野町の温泉地にて開催予定であることが案内された。

●その他

会場にて、興和オプトロニクス（株）による双眼鏡等の機材展示コーナーが設置された。



（自然保護室／奴賀 俊光）

◆事務局からのお知らせなど

■自然保護室より

■『Strix』第 42 号発行のお知らせ

『Strix』（ストリクス：野外鳥類学論文集）は、当会が 1982 年より発行している、会員の方の調査研究に基づく和文誌です。

鳥類の生態に関する新知見、新しい繁殖地や飛来地の情報、これまでに知られていない行動の観察記録、自然保護活動の事例など幅広いテーマを扱っています。

このたび第 42 号を発行しましたのでお知らせします。

第 42 号は、原著論文 5 編、短報 8 編、論説 1 編、書評 3 編より構成されています。会員の方の長期モニタリングによる鳥の増減傾向の把握、繁殖と食性の長期調査、新繁殖地の報告や興味深い生態の観察など、野外での観察に基づく貴重な報告を掲載しています。ぜひ、手にとっていただければと思います。

【第 42 号に掲載された論文】

<https://www.wbsj.org/activity/conservation/publications/strix/strix42/>



▲『Strix』第 42 号 表紙

【『Strix』第 42 号のご購入方法】

- 頒布価格 ￥3,300（税込） 送料 ￥430（1 冊につき）
- 当会ホームページ、E メールのいずれかよりお申込み下さい
 - ・当会ホームページ
<https://www.wbsj.org/activity/conservation/publications/strix/>
 - ・日本野鳥の会 Strix で検索
 - ・E メール：hogo@wbsj.org

※バックナンバーも当会ホームページからご購入いただけます。

<https://www.wbsj.org/activity/conservation/publications/strix/strix-dl/>

【お問い合わせ先】

自然保護室

E メール：strix@wbsj.org

（自然保護室／山本 裕）

■『Strix』第 43 号の原稿募集のお知らせ

『Strix』は、上田恵介会長（Strix 編集長、立教大学名誉教授）、三上かつら氏（Strix 副編集長、バードリサーチ）による論文指導のもとで、査読者や英文校閲者のご協力を得て、年 1 回発行しています。会員であればどなたでも投稿できます。

現在、『Strix』第 43 号（2027 年 6 月発行予定）への掲載に向けた原稿を募集しています。

第 43 号は巣箱特集です。巣箱を用いた継続的な調査、巣箱を利用する鳥の興味深い行動、巣箱の改良に関する取り組み等、巣箱をテーマとする調査研究と活動事例の特集します。巣箱利用に関するデータをお持ちの方は、この機会にぜひ原著論文や短報等への投稿をご検討ください。また、巣箱を使った地域活動の事例、小中学校での取り組み、親子向けのイベントの事例等を扱う論説も募集します。

特集テーマ「巣箱」の投稿原稿の〆切は 2026 年 10 月 31 日です。

また、特集テーマ以外の通常の「原著論文」、「短報」、「総説」、「論説（自然保護レポートを含む）」、「観察会報告」も募集します。こちらの投稿原稿の〆切は特に決めていません。

投稿の方法や書式については投稿規程をご確認下さい。

【投稿規程】

https://www.wbsj.org/activity/conservation/publications/strix/strix_rule/

【原稿の送り先】

Eメール：strix@wbsj.org

皆さまのお手元にある調査研究のデータや観察記録などを見直していただき、未発表のものがありましたら、ぜひ、『Strix』にご投稿下さい。どうぞ、よろしくお願い致します。

(自然保護室／山本 裕)

■総務室より

■会員数

6月1日時点の会員数は32,977人で、先月と比べ11人増加しました。

5月の入会・退会者数(表1)をみると、入会者数は退会者数より20人多くなっています。

5月1日付の入会者数は194人で、前年同月の入会者数209人と比べ15人減少しました。

また、5月末日付の退会者数は174人で、前年同月の退会者数212人と比べ38人減少しました。

なお、会員の増減は入会者数と退会者数のほかに、会費切れ退会となった後に会費が支払われ会員として復活した人数によって決まります。

表1. 5月の入会・退会者数

	入会者数	退会者数
個人特別会員	12 人	15 人
総合会員(おおぞら会員)	40 人	30 人
本部型会員(青い鳥会員)	26 人	27 人
支部型会員(赤い鳥会員)	81 人	63 人
家族会員	35 人	39 人
合計	194 人	174 人
年度累計	460 人	※

※会費切れ退会となった後に会費が支払われ会員として復活する方がいらっしゃるため、退会者数の年度累計は、実際の退会者数とずれた数字となります。

※上記集計は速報値になります。

●都道府県および支部別会員数

野鳥誌贈呈者数を除いた数を掲載します。

表2. 都道府県別の会員数(6月1日時点)

都道府県	会員数	対前月差
北海道	1,592 人	-5 人
青森県	203 人	-2 人
岩手県	318 人	1 人
宮城県	537 人	1 人

秋田県	230 人	0 人
山形県	213 人	-1 人
福島県	489 人	1 人
茨城県	817 人	4 人
栃木県	799 人	1 人
群馬県	598 人	0 人
埼玉県	1,911 人	-2 人
千葉県	1,421 人	-6 人
東京都	4,713 人	-13 人
神奈川県	3,003 人	-6 人
新潟県	337 人	6 人
富山県	187 人	-3 人
石川県	270 人	1 人
福井県	219 人	-1 人
山梨県	243 人	0 人
長野県	822 人	4 人
岐阜県	471 人	5 人
静岡県	1,175 人	1 人
愛知県	1,609 人	-4 人
三重県	461 人	-1 人
滋賀県	326 人	2 人
京都府	824 人	6 人
大阪府	1,838 人	-2 人
兵庫県	1,221 人	15 人
奈良県	463 人	0 人
和歌山県	199 人	0 人
鳥取県	217 人	1 人
島根県	191 人	1 人
岡山県	517 人	-2 人
広島県	549 人	4 人
山口県	276 人	3 人
徳島県	322 人	2 人
香川県	211 人	0 人
愛媛県	314 人	0 人
高知県	97 人	-1 人
福岡県	1,119 人	3 人
佐賀県	229 人	4 人
長崎県	207 人	0 人
熊本県	354 人	-1 人
大分県	215 人	-1 人
宮崎県	238 人	-2 人
鹿児島県	292 人	-4 人
沖縄県	62 人	-1 人
海外	16 人	0 人
不明	42 人	3 人
全国	32,977 人	11 人

備考：不明は転居先が不明の会員を示します。

表3. 支部別の会員数(6月1日時点)

支部	会員数	対前月差
オホーツク支部	229 人	0 人
根室支部	71 人	0 人
釧路支部	137 人	0 人
十勝支部	200 人	-1 人

旭川支部	114 人	0 人
滝川支部	37 人	0 人
道北支部	74 人	0 人
札幌支部	290 人	1 人
小樽支部	45 人	0 人
苫小牧支部	159 人	1 人
室蘭支部	118 人	0 人
道南檜山	70 人	0 人
青森県支部	106 人	-2 人
弘前支部	109 人	0 人
秋田県支部	220 人	0 人
山形県支部	203 人	-1 人
宮古支部	74 人	0 人
もりおか	137 人	0 人
北上支部	81 人	0 人
宮城県支部	505 人	2 人
ふくしま	119 人	-1 人
郡山支部	151 人	1 人
白河支部	16 人	0 人
会津支部	51 人	1 人
奥会津連合	4 人	0 人
いわき支部	85 人	1 人
福島県相双支部	16 人	0 人
南相馬	18 人	0 人
茨城県	735 人	3 人
栃木県支部	803 人	1 人
群馬	533 人	-2 人
吾妻	46 人	0 人
埼玉	1,433 人	-1 人
千葉県	852 人	2 人
東京	2,690 人	-4 人
奥多摩支部	718 人	-8 人
神奈川支部	1,862 人	-2 人
新潟県	258 人	6 人
佐渡支部	43 人	0 人
富山	166 人	-3 人
石川	249 人	2 人
福井県	208 人	-1 人
長野支部	372 人	1 人
軽井沢支部	167 人	4 人
諏訪支部	238 人	-1 人
木曽支部	20 人	0 人
伊那谷支部	63 人	-1 人
甲府支部	179 人	3 人
富士山麓支部	39 人	-2 人
東富士	55 人	0 人
沼津支部	124 人	0 人
南富士支部	219 人	0 人
南伊豆	33 人	0 人
静岡支部	306 人	1 人
遠江	331 人	0 人
愛知県支部	1,262 人	-1 人
岐阜	445 人	1 人
三重	413 人	2 人

奈良支部	388 人	-3 人
和歌山県支部	207 人	0 人
滋賀	332 人	1 人
京都支部	795 人	7 人
大阪支部	1,689 人	-5 人
ひょうご	924 人	10 人
鳥取県支部	236 人	1 人
島根県支部	192 人	1 人
岡山県支部	503 人	0 人
広島県支部	480 人	7 人
山口県支部	247 人	1 人
香川県支部	169 人	-1 人
徳島県支部	343 人	7 人
高知支部	88 人	0 人
愛媛	295 人	1 人
北九州支部	227 人	2 人
福岡支部	511 人	4 人
筑豊支部	195 人	-4 人
筑後支部	132 人	-1 人
佐賀県支部	312 人	9 人
長崎県支部	180 人	-1 人
熊本県支部	343 人	-1 人
大分県支部	205 人	0 人
宮崎県支部	234 人	-2 人
かごしま県支部	269 人	-4 人
やんばる支部	35 人	-1 人
西表支部	56 人	0 人
	27,888 人	30 人

備考：支部別の会員数の合計は、都道府県別の会員数の合計と異なります。

これは、本部型（青い鳥）会員や支部に所属されていない個人特別会員が支部別の会員数に含まれないためです。

（総務室／鈴木 風香）

◆支部ネット担当より

いつも支部ネット通信をご愛読いただきありがとうございます。

今号は、日本野鳥の会石川より投稿をお寄せいただきました。ありがとうございます。

支部ネット通信では、支部やブロックから全国の支部・ブロックへ発信したい情報をご投稿いただいて掲載することができます。ぜひご活用ください。投稿にあたって特に字数の制限などは設けていません。できるだけ弾力的に対応させていただきます。原稿は毎月 5 日頃が締め切りで、25 日頃に発行となります。ご投稿は下記アドレスまでお送りください。

また、前号でもご案内しましたとおり、7 月 7 日（月）に財団事務局にて、全国各地の紙版支部報の「とりまとめ便」の発送を行う予定です。支部報以外のもの（ちらし等）も同送可能ですので、発送ご希望の場合は下記要領でお送りください。

<送付要領>

- 受付〆切：2026 年 6 月 30 日（必着）
- 必要部数：75 部程度（送付対象は全支部ですが、事前に「送付不要」のご連絡を頂いている支部を除いています。なお 75 部より少なくお送りいただいた場合は、財団事務局にて適宜調整させていただきます）
※「特定の支部にのみ同封」といったご依頼はご遠慮ください
- 送付先：「総務室人事総務グループ 支部報とりまとめ便担当」まで

近所のツバメの巣からヒナ 5 羽が無事に巣立ちました。去年は途中でカラスにやられてしまったので案じていましたが、今年は無事に周囲を元気よく飛び回る姿を見ることができました。

次号もどうぞよろしくお願いいたします。

日本野鳥の会

支部ネット通信

2026 年 6 月号・通巻 293 号

◆発行

公益財団法人日本野鳥の会 2026 年 6 月 25 日

◆担当

総務室 人事総務グループ

五十嵐真/川島麗子/深谷静流/原元奈津子

〒141-0031

東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル

TEL：03-5436-2620

FAX：03-5436-2635

E-mail：sibu-net@wbsj.org
